

博士論文（要約）

論文題目 新宿歌舞伎町の社会学的研究—都市地域社会の把握に関する方法的考察

氏名 武岡 暢

新宿歌舞伎町の社会学的研究

都市地域社会の把握に関する方法的考察

序章 繰り返される「浄化」

第1章 問題設定と研究の方法

1-1 統計資料に見る歓楽街

1-2 「地域コミュニティ」の困難

1-3 「地域社会」の研究方法

第2章 歌舞伎町の統計と歴史

2-1 歌舞伎町の統計

2-2 歌舞伎町の形成と成長

2-3 雑居ビル火災——出来事と構造

第3章 「地域イメージ」と雑居ビル

3-1 警察と自治体

3-2 商店街振興組合と雑居ビルオーナーたち

3-3 不動産業者の空間管理

3-4 雑居ビルの不透明性と地域イメージ

第4章 風俗産業の労働と経営

4-1 男性客向け接待系風俗営業（キャバクラ）

4-2 女性客向け接待系風俗営業（ホストクラブ）

4-3 店舗型性風俗（ヘルス、ソープ）

4-4 無店舗型性風俗（デリヘル）

4-5 風俗産業のサービス、ジェンダー、空間

第5章 ストリートにおける活動と意味づけ

5-1 ストリートにかかわる法令とパトロール

5-2 客引きによる客の供給と「ぼったくり」

5-3 スカウトが取り結ぶ契約と信頼

5-4 イメージのメディア、需要の仲介

第6章 結論

6-1 歌舞伎町の3つの領域

6-2 活動はいかにして再生産されるか

6-3 活動と「場」の相互作用

6-4 都市地域社会の把握に関する方法的考察、ならびに本研究の意義と限界

■謝辞

■インフォーマントリスト

■付録資料：序章「繰り返される『浄化』」

■文献

■ 本文

博士論文の全部がすでに以下の書籍として出版されており、全文公表出来ない。

武岡暢、2017、『生き延びる都市—新宿歌舞伎町の社会学』新曜社。ISBN 978-4-7885-1513-0

■ 文献

Allison, Anne, 1994, *Nightwork: Sexuality, Pleasure, and Corporate Masculinity in a Tokyo Hostess Club*, Chicago: The University of Chicago Press.

Anderson, Elijah, 1990, *STREETWISE: race, class, and change in an urban community*, Chicago: The University of Chicago Press. (=奥田道大・奥田啓子訳, 2003, 『ストリート・ワイズ—人種／階層／変動にゆらぐ都市コミュニティに生きる人びとのコード』ハーベスト社.)

———, 1999, *Code of Street: Decency, Violence, and the Moral Life of the Inner City*, W.W.Norton & Company. (=2012, 田中研之輔・木村裕子訳『ストリートのコード—インナーシティの作法／暴力／まっとうな生き方』ハーベスト社.)

朝賀繁・桜田ゆかり・川口哲郎・後藤春彦・戸沼幸市, 1985, 「新宿歌舞伎町の風俗営業の動向と風営法改正 新宿の研究# 2」『日本建築学会大会学術講演梗概集 F.都市計画, 建築経済・住宅問題, 建築史・建築意匠』1985: 27-8.

Castells, Manuel, 1977, *La Question urbaine*, Paris: Maspero. (=1984, 山田操訳『都市問題』恒星社厚生閣.)

藤井良樹, 2008, 『キャバ嬢「給与明細」のヒミツ』講談社.

福武直編, 1954, 『日本農村社会の構造分析』東京大学出版会.

———, 1967, 『大井町—地域社会の構造と展開』東京大学出版会.

福富太郎, 1994, 『昭和キャバレー秘史』河出書房新社.

船曳建夫, 1985, 「人類学における記述対象の限定について—社会と文化の存在様相に関する考察とモデル(1)」『東洋文化研究所紀要』97: 55-80.

布施鉄治編, 1982, 『地域産業変動と階級・階層—炭都夕張／労働者の生産・労働—生活史・誌』御茶の水書房.

布施鉄治・小林甫, 1979, 「現段階における地域社会研究・序説」地域社会研究会『地域社会研究会年報第一集—地域社会研究の現段階的課題』時潮社, 1-92.

Gagné, Nana Okura, 2010, “The Business of Leisure, the Leisure of Business: Rethinking Hegemonic Masculinity through Gendered Service in Tokyo Hostess Clubs,” *Asian Anthropology*, 9(1): 29-55.

Galpin, Charles J., 1920a, “A Method of Making a Social Survey of a Rural Community,” John Phelan ed, *Readings in Rural Sociology*, New York: Macmillan, 484-90.

———, 1920b, “The Social Anatomy of an Agricultural Community,” John Phelan ed, *Readings in Rural Sociology*, New York: Macmillan, 490-7.

Gans, Herbert J., 1962→1982, *The Urban Villagers: Group and Class in the Life of Italian-Americans. Updated and Expanded edition*, Free Press (=2006, 松本康訳『都市の村人たち—イタリア系アメリカ人の階級文化と都市再開発』ハーベスト社.)

- Goffman, Erving, 1959, *The Presentation of Self in Everyday Life*, Doubleday & Company, Inc. (=1974, 石黒毅訳『行為と演技日常生活における自己呈示』誠信書房.)
- 後藤清孝, 2005, 「警視庁における盛り場総合対策について」『警察学論集』58(5): 31-47.
- 原哲也, 2006a, 「新宿歌舞伎町の繁華街対策——新宿警察署における新宿歌舞伎町対策への取り組み 上」『警察公論』61(10): 36-45.
- , 2006b, 「新宿歌舞伎町の繁華街対策——新宿警察署における新宿歌舞伎町対策への取り組み 下」『警察公論』61(11): 74-84.
- 橋本克彦, 2000, 『欲望の迷宮 新宿歌舞伎町』筑摩書房.
- 蓮見音彦, 1987, 「戦後農村社会学の射程」『社会学評論』38(2): 167-80.
- , 1990, 「序章 調査研究の基本的視点と研究の経過」蓮見音彦・似田貝香門・矢澤澄子編『都市政策と地域形成——神戸市を対象に』東京大学出版会, 1-16.
- 蓮見音彦・奥田道大, 1993, 「はしがき」蓮見音彦・奥田道大編『21世紀日本のネオ・コミュニティ』東京大学出版会, i-iv.
- 初田香成, 2012, 「土地権利関係の視点から見た東京の戦災復興区画整理事業に関する考察——新宿・歌舞伎町を題材に」日本建築学会国際的・都市史的観点からみた都市再生論〔若手奨励〕特別研究委員会『国際的・都市史的観点からみた都市再生論に関する研究』, 39-44.
- 服部銚二郎, 1977, 『都市と盛り場——商業立地論序説』同友館.
- Hill, Peter B.E., 2003, *Japanese Mafia: Yakuza Law and the State*, Oxford University Press. (=2007, 田口未和訳『ジャパニーズ・マフィア——ヤクザと法と国家』三交社.)
- ヒル, ピーター, 2005, 「平成ヤクザ——バブル崩壊と暴対法」『社会科学研究』56(2): 186-209.
- Hunter, Albert J. And Gerald D. Suttles, 1972, “The Expanding Community of Limited Liability,” Gerald D. Suttles, *The Social Construction of Communities*, Chicago and London: The University of Chicago Press, 44-81.
- 磯村英一, 1968, 『人間にとって都市とは何か』日本放送出版協会.
- 磯村幸一郎, 2007, 『凶解入門業界研究 最新不動産業界の動向とカラクリがよ〜くわかる本』秀和システム.
- 伊藤裕作企画・構成, 1987, 『線後を彩った女たち——その30年史』双葉社.
- Janowitz, Morris, 1967, *The Community Press in an Urban Setting: The Social Elements of Urbanism Second Edition*, Chicago and London: The University of Chicago Press.
- Jeffrey, Leslie Ann & Gayle MacDonald, 2006, ““It’s the Money, Honey”: The Economy of Sex Work in the Maritimes,” *Canadian Review of Sociology*, 43(3): 313-327.
- 歌舞伎町商店街振興組合, 1964, 『歌舞伎町商店街名簿』非売品¹.
- , 1967, 『歌舞伎町商店街名簿』非売品.
- , 1970, 『歌舞伎町商店街名簿』非売品.
- , 1980, 『歌舞伎町商店街名簿』歌舞伎町商店街振興組合.

¹ 1964年以下、各年の『名簿』については歌舞伎町商店街振興組合事務局で閲覧させていただいた。

- , 1988, 『歌舞伎町商店街名簿』歌舞伎町商店街振興組合.
- , 2000, 『歌舞伎町商店街名簿』歌舞伎町商店街振興組合.
- , 2009, 『歌舞伎町の60年——歌舞伎町商店街振興組合の歩み』歌舞伎町商店街振興組合.
- 蔭山信, 2008a, 『注解風営法 I』東京法令出版.
- , 2008b, 『注解風営法 II』東京法令出版.
- 開沼博, 2011, 「ポスト成長期の盛り場——歌舞伎町キャッチのエスノグラフィー」第59回関東社会学会大会報告原稿.
- 金井利彦, 1980, 『新宿御苑』郷学舎.
- 兼松左知子, 1973, 「II 婦人相談員の活動 新宿地区」東京都民生局婦人部福祉課『東京都の婦人保護——売春防止法全面施行15周年記念』, 91-103.
- 川畑智子, 1998, 「素人ホステスから見た『女らしさ』のワナ」河野貴代美編『シリーズ〈女性と心理〉第2巻 セクシュアリティをめぐって』新水社, 161-94.
- 警察庁, 2007, 『警察白書——特集:暴力団の資金獲得活動との対決』ぎょうせい.
- 警視庁新宿警察署警務課, 2000, 『新宿警察署史』新宿警察署協力団体.
- 木島由晶, 2009, 「『男らしさ』の装着——ホストクラブにおけるジェンダー・ディスプレイ」宮台真司・辻泉・岡井崇之編『「男らしさ」の快樂——ポピュラー文化からみたその実態』勁草書房, 137-68.
- 近代消防編集局, 2001a, 「東京・新宿歌舞伎町『明星56ビル』火災から——防火対策を考える!」『近代消防』486: 17-23.
- , 2001b, 「東京消防庁, 新たに判明した『新宿区歌舞伎町ビル火災概要』を10月5日発表」『近代消防』487: 57.
- 喜安朗, 2008, 『パリの聖月曜日——19世紀都市騒乱の舞台裏』岩波書店.
- 倉沢進, 1968, 『日本の都市社会』福村出版.
- 倉沢進編, 2002, 『改訂版 コミュニティ論』放送大学教育振興会.
- 香西一品, 2006, 「防犯対策とまちづくりの連携協働による都市の安心安全の再構築——歌舞伎町ルネッサンスの取り組みについて」『新都市』60(1): 85-93.
- 李東毓・榊原渉・戸沼幸市, 1999, 「戦後の地区発展からみた新宿歌舞伎町における復興計画の影響に関する研究」『日本建築学会計画系論文集』524: 207-14.
- Lefebvre, Henri, 1974, *La Production de l'espace*, Paris: Éditions Anthropos. (=2000, 斎藤日出治訳『空間の生産』青木書店.)
- 松原治郎, 1978, 『コミュニティの社会学』東京大学出版会.
- 松田さおり, 2005, 「サービス業に従事する女性の〈仕事仲間〉——ホステスクラブZの事例を中心として」『ソシオロジ』50(1): 87-104.
- , 2006, 「ホステスの移動を考える」現代風俗研究会『現代風俗研究会年報第28号——現代風俗 移動の風俗 「成り上がり」から「お遍路」まで』新宿書房, 175-205.
- , 2007, 「お水のヘルプ」現代風俗研究会『現代風俗研究会年報第29号——現代風俗 応援・サポート・人助けの風俗』新宿書房, 160-4.
- , 2008, 「ホステスたちは、何を売る?」井上章一編『性欲の文化史2』講談社, 183-216.

- , 2009, 「日本における『女のサービス』と企業社会の文化」谷川建司・王向華・呉咏梅編『拡散するサブカルチャー——個室化する欲望と癒しの進行形』青弓社, 119-50.
- 松本康, 2003, 「都市社会学の遷移と伝統」『都市社会学年報』21: 63-79.
- 松澤光雄, 1987, 「成長する盛り場・その三層構造論」『別冊宝島 66 盛り場の資本主義 悪場所という欲望の経済人類学』: 257-68.
- Merton, Robert K., 1957, *SOCIAL THEORY AND SOCIAL STRUCTURE: Toward the Codification of Theory and Research*, The Free Press. (=1961, 森東吾・森好夫・金沢実・中島竜太郎訳『社会理論と社会構造』みすず書房.)
- 森岡清志, 1993, 「都市的ライフスタイルの展開とコミュニティ」蓮見音彦・奥田道大編『21世紀日本のネオ・コミュニティ』東京大学出版会, 9-32.
- 永井良和, 2002, 『風俗営業取締り』講談社.
- , 2005, 「風俗営業のコントロール—<囲い込み>から<個人認証>へ」宝月誠・進藤雄三編『社会的コントロールの現在—新たな社会的世界の構築をめざして』世界思想社, 174-88.
- 中里見博, 2011, 「判例紹介 性風俗営業の人権侵害性—『性交類似行為』をさせる営業等の違法性に関する諸判決」『福島大学行政社会論集』23(3): 87-103.
- 中筋直哉, 1995, 「盛り場と繁華街—一つの社会学的試論」『山梨大学教育学部研究報告』46(第一分冊): 90-7.
- , 1996, 「群衆の居場所—近代都市空間の形成と民衆の『都市の体験』」吉見俊哉編『都市の空間 都市の身体』勁草書房, 57-89.
- , 1997, 「構造分析から社会過程分析へ—現代都市社会研究の方法と課題」蓮見音彦・似田貝香門・矢澤澄子編『現代都市と地域形成』東京大学出版会, 217-35.
- 中田実, 1993, 『地域共同管理の社会学』東信堂.
- 中山弘子, 2006, 「『歌舞伎町ルネッサンス』への取組み」『警察公論』61(12): 37-46.
- , 2007, 「歌舞伎町ルネッサンスでワクワクドキドキするまちを創る」『都市問題』98(2): 32-45.
- 中澤秀雄, 2007, 「地方自治体『構造分析』の系譜と課題—『構造』のすき間から多様化する地域」蓮見音彦編『講座社会学 3 村落と地域』東京大学出版会, 169-205.
- 西方昭典, 2005, 「繁華街・歓楽街を再生するための総合対策の推進について」『警察学論集』58(12): 49-66.
- 西野喜一, 2002, 『法律文献学入門——法令・判例・文献の調べ方』成文堂.
- 西澤晃彦, 1995, 『隠蔽された外部——都市下層のエスノグラフィー』彩流社.
- , 1996, 「『地域』という神話——都市社会学者は何を見ないのか?」『社会学評論』47(1): 47-62.
- , 2012, 「貧困の都市社会学?」『日本都市社会学年報』30: 5-14.
- 似田貝香門, 1975, 「地域問題と住民運動——自治体改革をめざして」『現代と思想』19: 202-29.
- 似田貝香門, 1993, 「序章 研究の課題と方法」似田貝香門・蓮見音彦編『都市政策と市民生活——福山市を対象に』東京大学出版会, 1-21.
- 似田貝香門・蓮見音彦編, 1993, 『都市政策と市民生活——福山市を対象に』東京大学出版会.

- 野呂芳明, 1997, 「都市市民社会と階級・階層」蓮見音彦・似田貝香門・矢澤澄子編『現代都市と地域形成』東京大学出版会, 61-80.
- 奥田道大, 1983, 『都市コミュニティの理論』東京大学出版会.
- , 1987, 「戦後日本の都市社会学と地域社会」『社会学評論』38(2): 181-99.
- , 2004, 『都市コミュニティの磁場——越境するエスニシティと21世紀都市社会学』東京大学出版会.
- 小内透, 2011, 「地域社会」地域社会学会『新版 キーワード地域社会学』ハーベスト社, 176-7.
- 大橋薫, 1959, 「都市の地域集団活動とその問題点——大阪市の場合を例として」『都市問題研究』11(6): 44-58.
- Pahl, R.E., 1975, *Whose City?: And further essays on urban society, 2nd ed.*, Penguin Books.
- 労働政策研究・研修機構, 2013, 『ユースフル労働統計——労働統計加工指標集』労働政策研究・研修機構.
- 阪口毅, 2013, 「『都市コミュニティ』研究における活動アプローチ」『地域社会学会年報』25: 77-91.
- 桜田ゆかり・朝賀繁・川口哲郎・後藤春彦・戸沼幸市, 1985, 「新宿歌舞伎町の土地利用と空間構成 新宿の研究#1」『日本建築学会大会学術講演梗概集 F.都市計画, 建築経済・住宅問題, 建築史・建築意匠』1985: 25-6.
- 佐藤健二, 1993, 「コミュニティ調査のなかの『コミュニティ』」蓮見音彦・奥田道大編『21世紀日本のネオ・コミュニティ』東京大学出版会, 153-76.
- , 2011, 「コミュニティ調査の方法的課題」『社会調査史のリテラシー——方法を読む社会学的想像力』新曜社, 117-40.
- 重信幸彦, 1999, 『タクシー／モダン東京民俗誌』日本エディタースクール出版部.
- 島崎稔・安原茂編, 1987, 『重化学工業都市の構造分析』東京大学出版会.
- 新宿区, 2002, 『「歌舞伎町雑居ビル火災」対策会議最終報告書』新宿区総務部総務課.
- 新宿区総務部, 1998, 『新宿区史——区成立50周年記念 第2巻』新宿区総務部.
- 塩野宏, 2005, 『行政法 I [第四版] 行政法総論』有斐閣.
- Simmel, Georg, 1903, “Die Großstädte und das Geistesleben,” *Jahrbuch der Gehe-stiftung zu Dresden*, 9. (=2011, 松本康訳「大都市と精神生活」松本康編『都市社会学セレクション第1巻 近代アーバニズム』日本評論社, 1-20.)
- , 1909, “Brücke und Tür,” *Der Tag*, 15 September. (=1999, 鈴木直訳「橋と扉」北川東子編『ジンメル・コレクション』筑摩書房, 89-100.)
- Sinclair, Joan, 2006, *Pink box: inside Japan's sex clubs*, New York: Abrams.
- 園田恭一, 1978, 『現代コミュニティ論』東京大学出版会.
- 総務省, 2011, 『平成21年経済センサス・基礎調査(確報)結果の概要』.
- 鈴木榮太郎, 1940→1968, 『鈴木榮太郎著作集 I 日本農村社会学原理(上)』未来社.
- , 1957, 『都市社会学原理』有斐閣.
- 多田良子, 2007, 「性サービス業における管理者のワーカーへの関わり——店長・マネージャーへの質的調査より」『Sociology Today』17: 56-62.
- 竹花豊, 2006, 「改正風営法の施行に当たって」『警察学論集』59(4): 1-6.

- 田村正博編著, 2006, 『現場警察官権限解説 下巻』立花書房.
- 内田貴, 2006, 『民法 I 第 3 版 総則・物権総論』東京大学出版会.
- Venkatesh, Sudhir Alladi, 2000, *American Project: the rise and fall of a modern ghetto*, Cambridge, Mass.: Harvard University Press.
- 若林幹夫, 1996, 「空間・近代・都市——日本における〈近代空間〉の誕生」吉見俊哉編『都市の空間 都市の身体』勁草書房, 1-26.
- , 1999, 『都市のアレゴリー』INAX 出版.
- , 1992→2013, 『熱い都市 冷たい都市・増補版』青弓社.
- Weber, Max, 1956, "Typologie der Städte" besorgt von Johannes Winckelmann, *Soziologie der Herrschaft*, 8, 735-822. (=1964, 世良晃志郎訳『都市の類型学』創文社.)
- Wellman, Barry, 1979, "The Community Question: The Intimate Networks of East Yorkers." *American Journal of Sociology*, 84: 1201-31. (=2006, 野沢慎司・立山徳子訳「コミュニティ問題——イースト・ヨーク住民の親密なネットワーク」野沢慎司編『リーディングス ネットワーク論——家族・コミュニティ・社会関係資本』勁草書房, 159-200.)
- Wellman, Barry and Barry Leighton, 1979, "Networks, Neighborhoods, and Communities: Approaches to the Study of the Community Question," *Urban Affairs Quarterly*, 14(3): 363-90.
- Whyte, William F., 1943→1993, *Street Corner Society, Fourth Edition*, Chicago: The University of Chicago Press. (=2000, 奥田道大・有里典三訳『ストリート・コーナー・ソサエティ』有斐閣.)
- Wirth, Louis, 1938, "Urbanism as a Way of Life," *American Journal of Sociology*, 44: 1-24. (=2011, 松本康訳「生活様式としてのアーバニズム」松本康編『都市社会学セレクション第 1 巻 近代アーバニズム』日本評論社, 89-115.)
- 矢部樹美男, 2009, 『不動産業界のしくみ』ナツメ社.
- 屋久哲夫・鈴木達也・長村順也, 2006, 「『風俗営業等の規制及び業務の適正化等に関する法律の一部を改正する法律』の制定について——その背景と内容」『警察学論集』59(4): 7-70.
- 山口厚, 2005, 『刑法』有斐閣.
- 山下和之, 2010, 『よくわかる不動産業界』日本実業出版社.
- 吉原直樹, 2011, 「はしがき」地域社会学会『新版 キーワード地域社会学』ハーベスト社, v-vi.
- 吉見俊哉, 1987, 『都市のドラマトウルギー』弘文堂.

■論文の内容の要旨

本論文の目的は、新宿歌舞伎町の維持、再生産のメカニズムを経験的なかたちで明らかにすることである。

序章では、新聞紙上で繰り返し報道されてきた歓楽街の「一斉摘発」や「浄化」が、歌舞伎町においても頻繁に実施されているという単純な事実を提示した。こうした取締りによって横浜市黄金町からは売春が一掃されたほか、静岡県熱海は地域経済の衰退によって歓楽街としての性質を失った。つまり、歌舞伎町が今日見られるような歓楽街としての姿を保っていることは、実は自明な事柄ではない。

第1章では、歓楽街に関連した統計を簡単に押さえたのち、歌舞伎町を社会学的な研究の俎上に載せるために必要な作業として、「地域社会」という概念の検討を行った。従来の地域社会学、都市社会学の諸研究が依拠していた「地域コミュニティ」概念の枠組みには、「空間（地域）」、「居住」、「コミュニティ」という3つの要素の癒着があり、こうした癒着を引き剥がさなければ、歌舞伎町のような地域を適切に対象化することは困難であった。そこで、「空間（地域）」を「居住」と「コミュニティ」から分離した上で、その「場」に「出入り」する人びとを含めた諸主体の、「活動」を焦点化するという「地域社会」概念による戦略を提示した。ここには、歌舞伎町を研究対象とするに当たって、社会関係よりは「空間性」を、居住や定着よりは「移動性」を、主体の再生産よりは「活動」の再生産を、それぞれ重視するという思惑があった。よって第3章以下で見るように具体的な調査は幅広い対象に対して実施され、参与観察も行った。

第2章では歌舞伎町に関する入手可能な公的統計を見たのち、2000年前後までの歌舞伎町の歴史を概観した。歌舞伎町に関する統計は相互に食い違いを見せており、その内容を評価することはしばしば困難であった。このことは、統計の前提となる調査が、歌舞伎町においては困難であることを示していた。であればこそ、質問紙等の構造化された調査以前に、対象において注目すべき要素とその構造的連関じたいを析出、探索するような、フィールド調査の有効性に光が当てられる。

西暦2000年ごろまでの歌舞伎町の歴史は、歌舞伎町が歓楽街になる歴史であった。1948年に起立した歌舞伎町であったが、1960年前後までは現在のゴールデン街付近に当たる「花園街」という地名が、売防法（1958年施行）いぜんからの旧青線街として歓楽街のイメージを担っていた。しかしその後、歌舞伎町の発展は急速に進み、60年代半ばには「新宿の繁華街の中心」の地位を占め、70年代半ば以降は多様化した風俗産業が集積して「日本一のピンクゾーン」と呼ばれるに至った。歓楽街としての爛熟を見せた歌舞伎町において、商店街振興組合や業界団体は組織率を低下させ、警察は風営法改正に伴って査察能力を奪われ、自治体は同法改正をもってして歌舞伎町から後退した。

第3章で取り上げたのは「地域」と「雑居ビル」という領域であった。第3章末では、この領域における諸主体による活動が、「雑居ビルの整序されない細分性を背景とした、イメージをめぐる相互交渉」であると述べた。本来は店舗空間の内実と不可分であるはずの「地域イメージ」は、歌舞伎町では映画のPRイベントや路上の美化活動などにおいて店舗空間からは遊離した位相で諸活動の対象とされていた。警察は査察の権限を持つため、店舗空間の内部にも介入することが可能な主体であるが、その警察であっても歌舞伎町に関与するのは刑法犯の認

知件数増大や検挙率の低下といった「治安」のイメージに関連してのことである。そうした意味で、警察、自治体、振興組合という各主体が「地域」というある意味で抽象的な枠組みにおいて歌舞伎町に関わるとき、その「地域」とは「イメージの領域」とでも呼ぶべき空間として立ち現れる。「地域」に関わる各主体の活動は、歌舞伎町が「地域」としてどのようなイメージを表示し発信するのか、に関する共犯的かつ対抗的な相互交渉なのである。

第4章で取り上げたのは「店舗」という領域である。具体的に取り上げたのは、接待系風俗営業の2つの業態と、店舗型性風俗、無店舗型性風俗であった。これら風俗産業で提供されるサービスの特質に加えて、店舗空間は「地域」や「ストリート」に比して圧倒的に閉鎖性が高いこともあり、各店舗の内部では客と従業員、あるいは従業員同士のあいだで、濃密な相互行為が繰り広げられていた。それは、各店舗において相対的に完結したインフォーマルな制度にまつわる意味づけの濃密さである。接待系風俗営業においては「指名」と「売上」に関連した「ヘルプ」や飲酒の実践がこれに当たる。性風俗においては店長ら経営陣と従業員の関係において、店舗への定着に関する相互交渉があった。

本稿の関心は、個別の店舗の消長とは差し当たって独立した、サービスの再生産の過程にある。歌舞伎町では店舗の流動性が高く、また業態のレベルで見ても目新しい業態が次々と出現しては消えている。それでも一貫して歌舞伎町が歓楽街としての姿を保っている事態を、本稿では、「サービス」という抽象性において再生産が実現していると見る。店舗や業態は、この「サービス」を具体化する枠組みなのである。そこで、店舗が安定した経営を実現する側面よりも、サービス提供を担う従業員が持続的に供給され、一定期間店舗に定着することが可能になっているメカニズムの探究として、サービスの再生産過程にアプローチしたのであった。

そこでは、従業員の恒常的不足と待遇の悪さが、店舗による定着努力と結びついていること、ならびに従業員供給に関して歓楽街という集積の効果がポジティブに影響している可能性が示された。

歌舞伎町において風俗産業で提供されるサービスは、「接待サービス」と「性的サービス」の2つに大別できる。これらのサービスは店舗空間の閉鎖性と相即しており、その意味でもこの空間を「サービスの領域」と言うことができる。店舗空間の閉鎖性がこれらサービスの提供を可能にし、これらサービスの提供が閉鎖性を要求している。

最後に第5章では「ストリート」という領域を取り上げた。ストリートにおける諸主体の活動はいずれも「仲介」が焦点に据えられていたため、これを「仲介の領域」と捉えることが出来る。

第5章ではじめに分析した、振興組合によるパトロール活動は、来街者が歌舞伎町に訪れる際に通るメインストリートである「セントラルロード」における客引きやスカウトを問題視し、これらへの対抗策として実施されていた。つまり、客引きやスカウトはメインストリートを通じての来街者の回遊を妨害する存在であると見なされていたのである。他方、第2節、第3節で取り上げた客引き、スカウトらは、ストリートにおける人びとの「需要」を店舗へと仲介する行為として自らの活動を意味づけていた。

パトロールは、客引きやスカウトを問題視する一方で、ストリートをイメージのメディアとして捉えることで、「あまり悪質な客引き（スカウト）行為でなければ問題ない」といったように、態度を軟化させてもいた。これは、ストリアートの空間が外部に向かって開かれており、イメージを表示する高い性能を備えていることと関わっている。

しかし、「地域」がその抽象性において「イメージの領域」たりえたのとは対照的に、「ストリート」はきわめて具体的な空間を指示している。そこでは現実に人びとが足繁く行き来しており、客引きやスカウトにとってそうした人びとは領有されるのを待つ資源なのである。第5章で分析されたのは、これらの職業の活動内容と、各当事者によるそれへの意味づけである。

第6章では以上の内容から、諸活動の再生産にかかわる相互作用のエッセンスとして媒介=分離という要素を指摘した。行政と風俗産業を媒介する振興組合、振興組合とテナントを媒介する不動産業者、店舗とキャストを媒介するスカウトらは、それぞれ二者を媒介すると同時に二者の分離を安定的なものにしたり、二者関係への内閉を流動化させるような働きをしていた。

こうした媒介=分離が活動の再生産に資する背景には、歌舞伎町の「場」の特性があった。雑居ビルとそこに入居する店舗の特性である「整序されずに流動する細分性の集積」がそれである。この特性は、主体にとっては不透明性として現象する。この不透明性を透明化する行政機関のはたらきを、微妙なバランスに留め置いていたのは、第一には店舗の流動する集積性であったが、第二には振興組合の存在があった。そして、こうした不透明性に振興組合が対処するのに貢献していたのが不動産業者による媒介=分離である。風俗産業の営業は不透明性に内閉することで成り立っているが、それには無視できないネガティブな要素もあり、そうした内閉性を相対化することにスカウトの働きは貢献していた。

「整序されずに流動する細分性の集積」が風俗産業の再生産に貢献していることは、歓楽街のなかにあるからこそ風俗産業が存続できる、ということを示している。これまで、歓楽街を風俗産業の集積した地区であるとしてきたが、事態はむしろ逆なのだ。不規則で細切れな大量の営業が頻繁に交替を繰り返しているからこそ、個別の店舗は消長しても、サービスは再生産されていくのである。歌舞伎町という地域社会の存続は、諸活動の再生産と「場」とのあいだの以上のような相互作用によって実現していた。

最後に、以上の分析を経た事後的な方法的考察として、内容自由な「地域社会」という枠組みの有効性を確認し、調査データの分析の結果明らかとなった「『地域社会』の代替可能性」という論点を、今後の検討課題として提示した。